

「次世代の学び創造プロジェクト」成果報告

東京未来大学 大橋 智

1 プロジェクト名

特別支援教育における ICT/遠隔技術を利用した巡回相談プロジェクト

2 目的

本プロジェクトでは、特別支援教育における巡回相談での ICT/遠隔支援技術の活用を目的として、1) 特別支援学級・通級指導学級担任への遠隔相談（相談機能への遠隔技術の適用）、2) 通常学級への ICT 機器による授業観察と相談活動の実施（授業観察への遠隔技術の適用）、3) 研修機能を備えた学校間連携・地域連携を目指す遠隔事例検討会議（学校間・支援施設間も含む遠隔支援）を行う。

3 プロジェクト責任者及びスタッフ

プロジェクト責任者 大橋 智（東京未来大学）

スタッフ 原口政明（埼玉純真短大）、遠藤 愛（星美学園短大）、榎本拓哉（徳島大学）
矢野善教（作新学院女子短大）、小川洸菜（公認心理師/巡回相談員）

4 本プロジェクトの実施

先行実施として、2022 年 10 月より 3 月まで、埼玉県下の市町村立小中学校（熊谷市・羽生市・吉川市）より各 2 校、県立高等学校 1 校で実施した。2023 年度以降、埼玉県下の市町村立小中学校、県立高等学校を対象に研究課題を実施する予定である。

5 実施の流れ

遠隔支援技術を用いた「遠隔巡回相談」を実施し、相談の事前・事後に事例の評価と巡回相談の満足度の評価を行った。

- (1) 研究実施者・県立総合教育センターは、研究参加校・参加者に対し、実施内容に関する説明を行い、同意書を取り交わした後、参加校に対して、機器を貸与した。
- (2) 研究参加者（教職員）は、相談事例の情報提供者（保護者）に対して、遠隔巡回相談を行うことを説明し、情報提供に関わる同意書を取り交した。
- (3) 研究実施者と参加者で日程を調整し、遠隔巡回相談を実施した。
 - (ア) 遠隔巡回相談は、1 セッション 45～90 分で行った。
 - (イ) 研究参加者（教職員）は、事前・事後に質問項目に回答した（任意）。
 - (ウ) 研究実施者と参加者（教職員）は、個人情報情報が周囲に漏れる恐れのない室内において相談を行った。
 - (エ) 研究参加者は、情報提供者（保護者）に対して相談内容を開示した。
- (4) 研究実施者は、遠隔巡回相談を終了した後、研究機器を回収し機器内に保存された情報を消去した。
- (5) 県立総合教育センターは、これらの実施手順を随時監督した。

6 遠隔巡回相談の方法

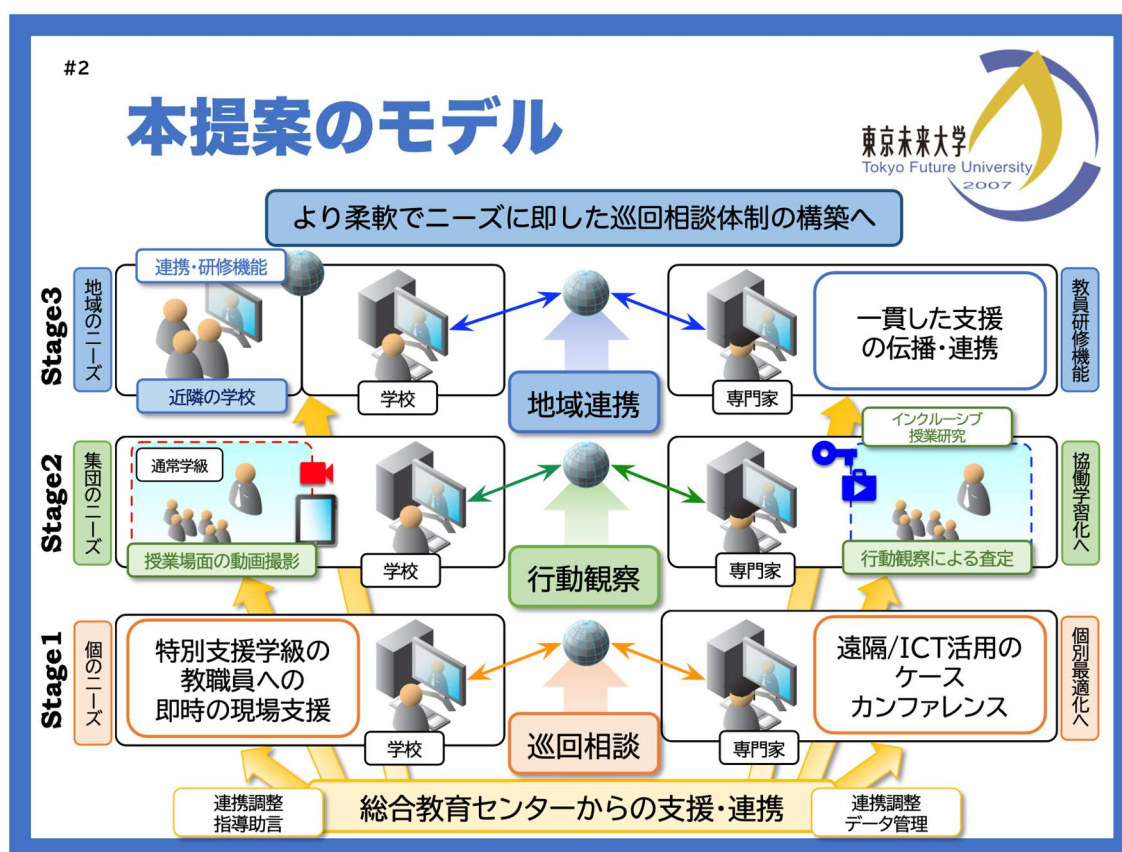
遠隔巡回相談は、貸与する Apple iPad から携帯電話回線を通して Zoom を用いて、研究実施者である相談員に対して通信を行った。その際、医療において「遠隔診察」に用いられる E2E 暗号化を用いるなど HIPAA 準拠および医療情報システムの安全管理に関するガイドライン（厚生労働省, 2022）に準じたセキュリティの確保を行った。そのため、研究参加者と研究実施者以外にその情報が漏洩することはなかった。

7 課題

遠隔巡回相談は、児童生徒の情報を取り扱うため、個人情報の取り扱いを厳密にし、保護者との同意をとり実施した。研究実施について、保護者との相談や共有のために時間を必要とする。

また、この保護者との合意形成に関わる関係者間でのネゴシエーションを丁寧に行うことで、時間を必要とした。

本研究は、科研費 22K02217「児童生徒の個に応じた学びを実現する遠隔通信技術を用いたアウトリーチの社会実装」の助成を受けた。



本研究のモデル図